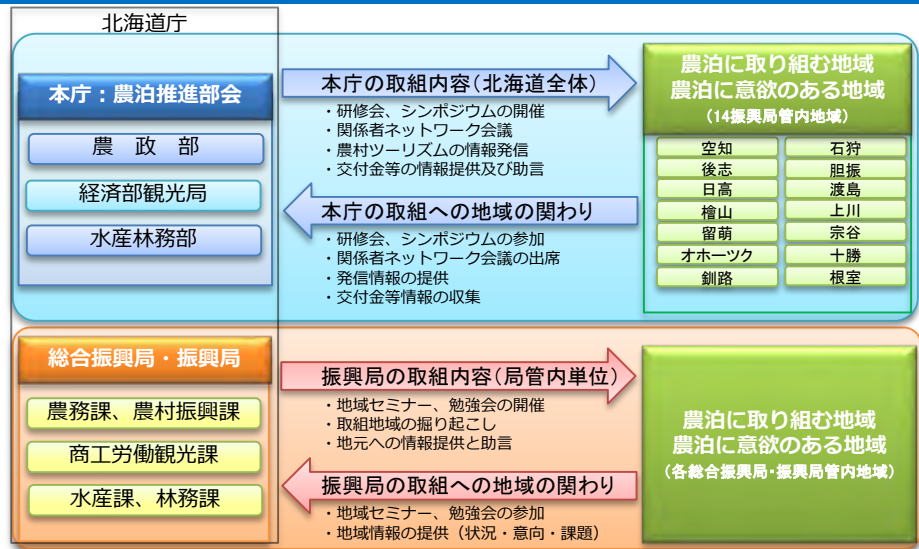


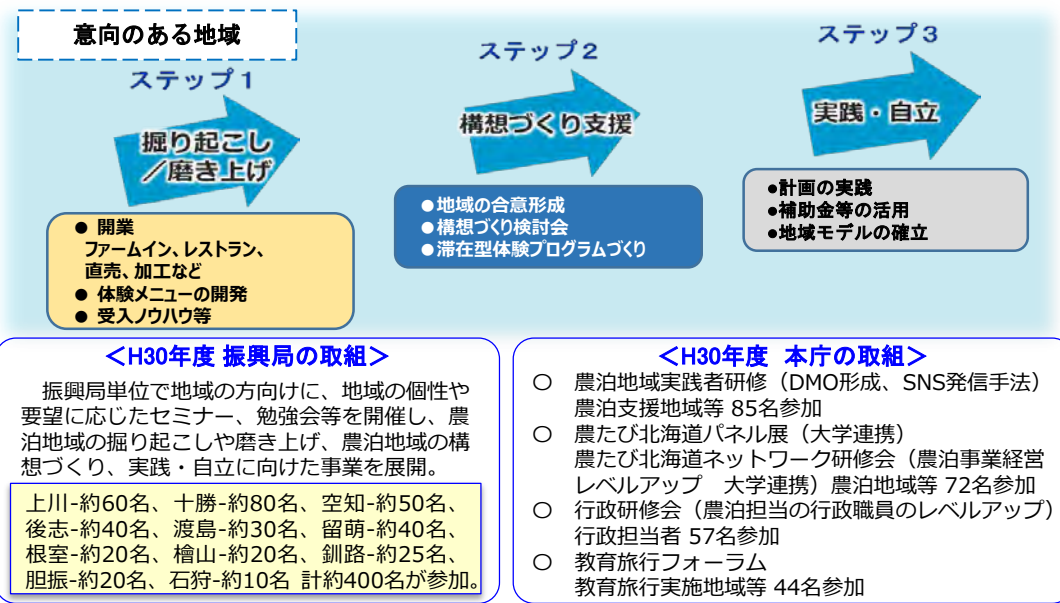
# 北海道における広域連携『農村ツーリズム』の取組 (事例⑫：広域連携)

- 北海道では、都市と農村の交流を更に拡大するため、農山漁村の豊かな自然や食、歴史・文化、生活体験などを観光資源として活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで連携する取組を「農村ツーリズム」として推進。
- 「農村ツーリズム」の取組を全道に普及するため、「農たび・北海道」という親しみやすい愛称・ロゴマークを掲げ、農村ツーリズムに関する様々な情報をFacebookなどにより発信。

## 【実施体制（北海道）】



## 地域がうるおう農村ツーリズム展開事業（実施期間 H29～H31）



## 【北海道庁による地域への支援内容】

### <地域がうるおう農村ツーリズム展開事業（道事業）> H29～31

- ・ 地方振興局単位でのセミナー・勉強会等の開催による取組への意識の醸成。
- ・ 地域ぐるみの受入体制整備段階からの構想づくりに道も参加。
- ・ 国の農泊推進に係る交付金または制度に関する情報提供、助言。
- ・ 道内の活動実践者同士のネットワークづくり、先進事例紹介。
- ・ Facebookによる情報発信、プロモーション等。

※農たび北海道Facebook (<https://www.facebook.com/nousontourism>)



### <農村ツーリズム育成支援事業（道事業）> H30

- ・ 地域の多様な滞在コンテンツや運営を担う人材の育成を支援。

## 【ロゴマークによるPRや大学との連携事業】

統一シンボルにより観光客の受け入れに意欲を有する北海道の農山漁村のブランド化を図るとともに、農泊の取組を推進。

国内だけではなく、外国人旅行客にも分かりやすいロゴにより、北海道の農村ツーリズムを普及。

札幌大谷大学の学生作品が農村ツーリズムのロゴに選定され、ポスター制作やセミナーの開催など大学と連携した取組を実施。



大学との連携によるセミナーやポスター制作